



# JAグループの営農支援方策と 農作業安全・労災補償に対する 取組みと課題

平成29年5月12日(金)

JA長野県営農センター

都 筑 伸 一



# 報告の内容

---

1. JA長野県営農センターとは
2. 長野県の農作業事故の状況
3. 農業所得増大の取組み
4. 農作業安全運動の取組み
5. 課題と対応策



# JA長野県営農センターとは

JA長野県営農センター  
センター長：全農

担い手支援グループ  
グループ長：中央会 6名

営農企画グループ  
グループ長：中央会 7名

農業振興グループ  
グループ長：全農 7名

農業経営  
管理支援

出向く体制

サポートセ  
ンター

農業振興ビ  
ジョン

生産振興

安全安心  
対策

- 農業経営指導
- 簿記システム
- 専任部署設置
- コンサル事業

- 体制整備
- 専任部署設置
- 農業法人協会

- 統一募集活動
- インターンシッ  
プ
- 営農指導ス  
タートアップ
- 営農技術員研  
修体系による  
研修実施

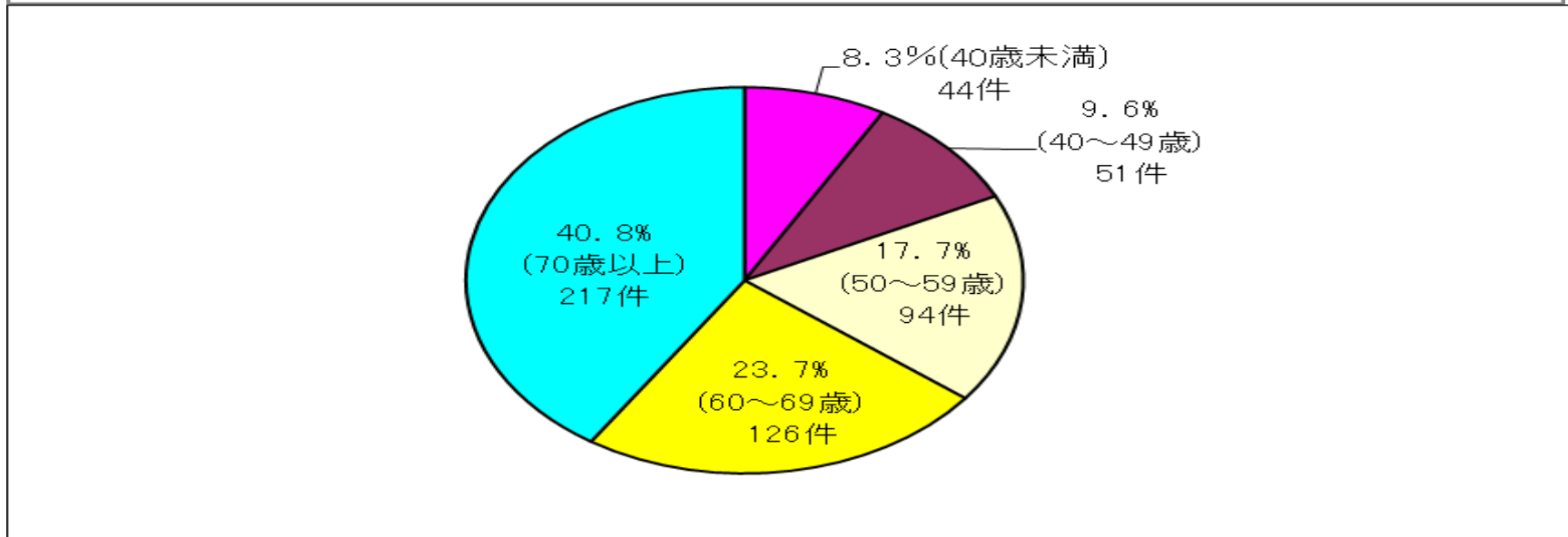
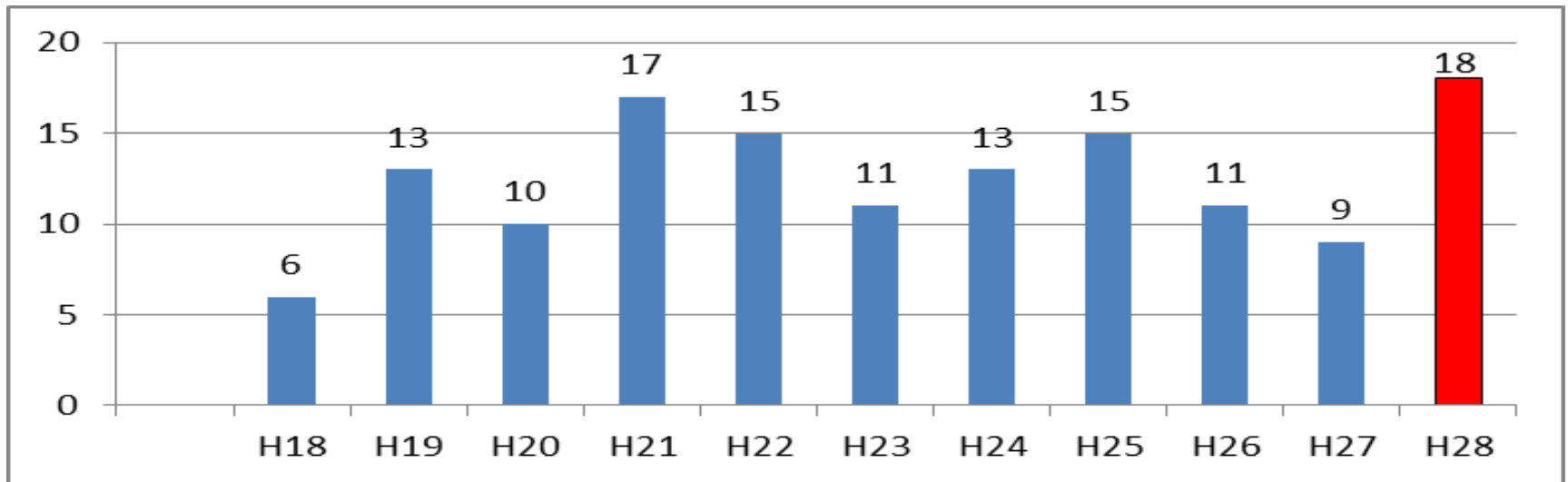
- 農業振興ビジョ  
ンの策定
- 農業開発基金
- 新規就農者確  
保・育成
- 集落営農・JA  
出資農業法人
- 農業労働力確  
保
- 農業作業安全  
運動、農業労  
災加入

- 果樹振興
- 野菜振興

- 環境配慮型農  
業の推進
- GAP推進
- トレーサビリ  
ティ
- 安全安心シス  
テム
- 廃プラ処理関  
係

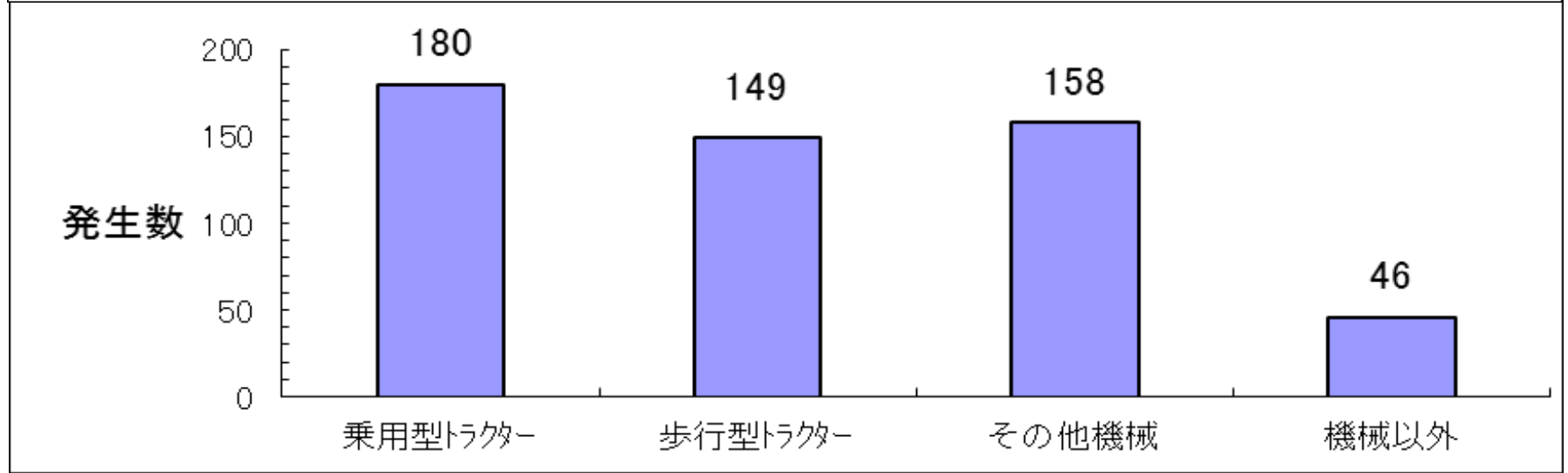
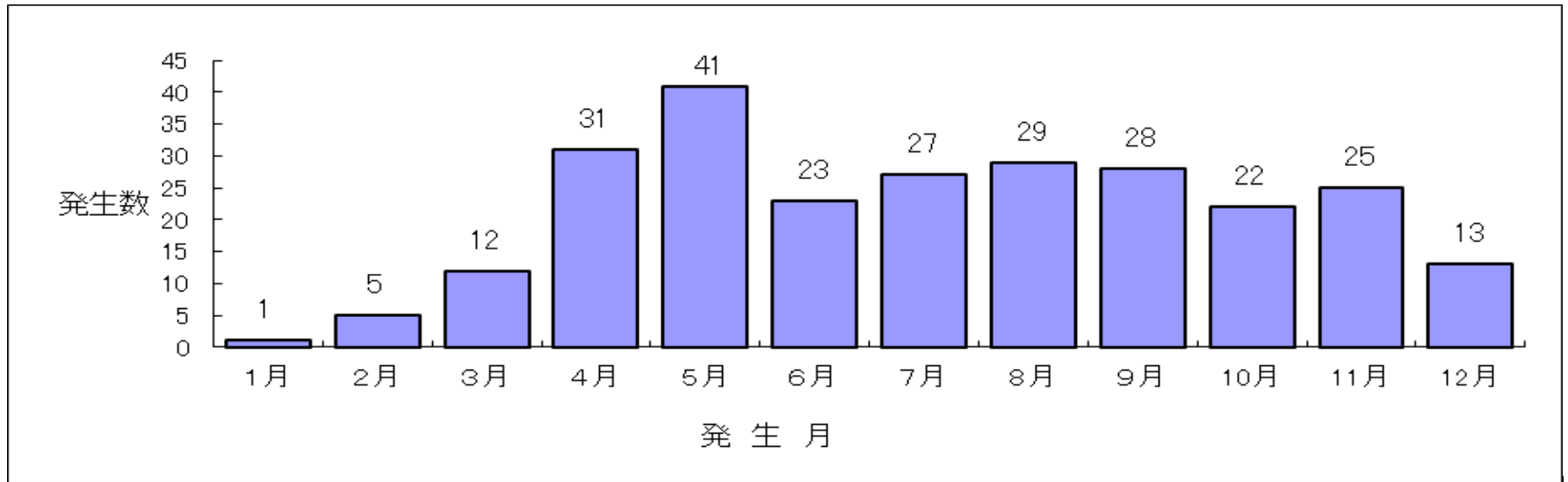


# 県内における農作業死亡事故発生数



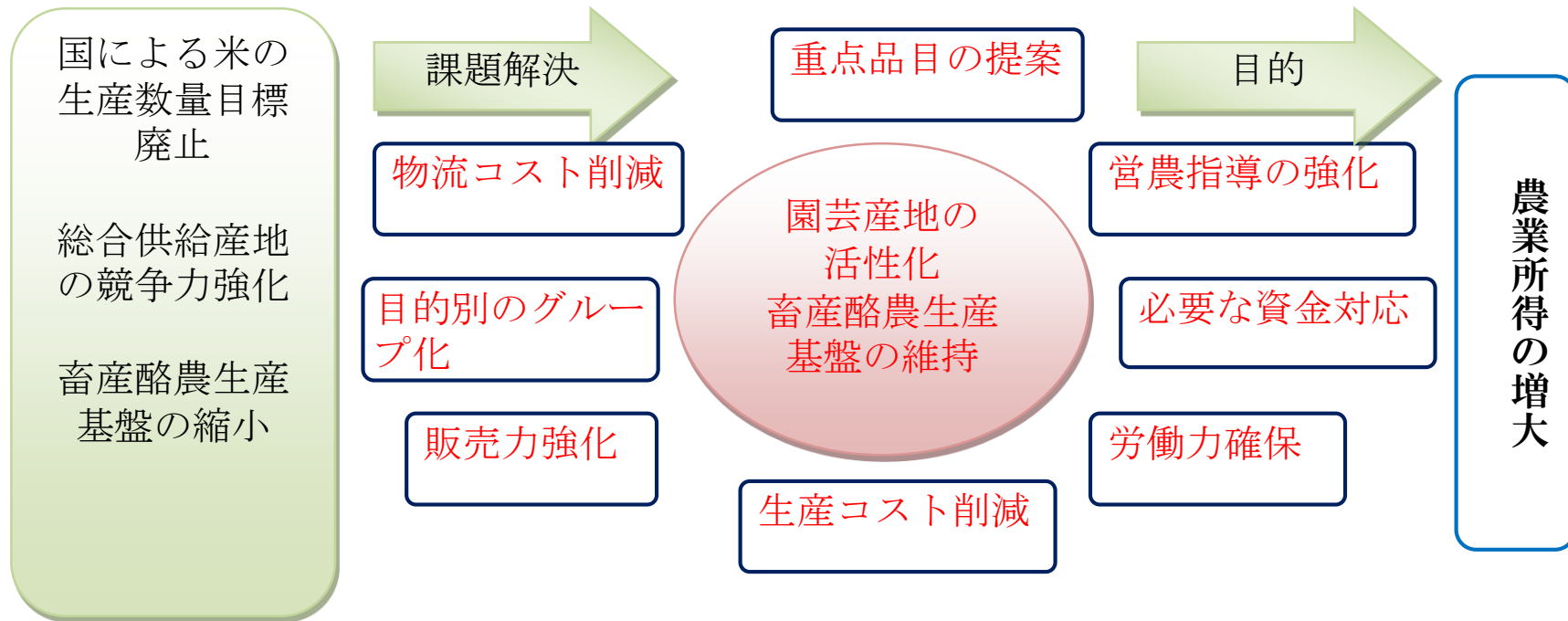
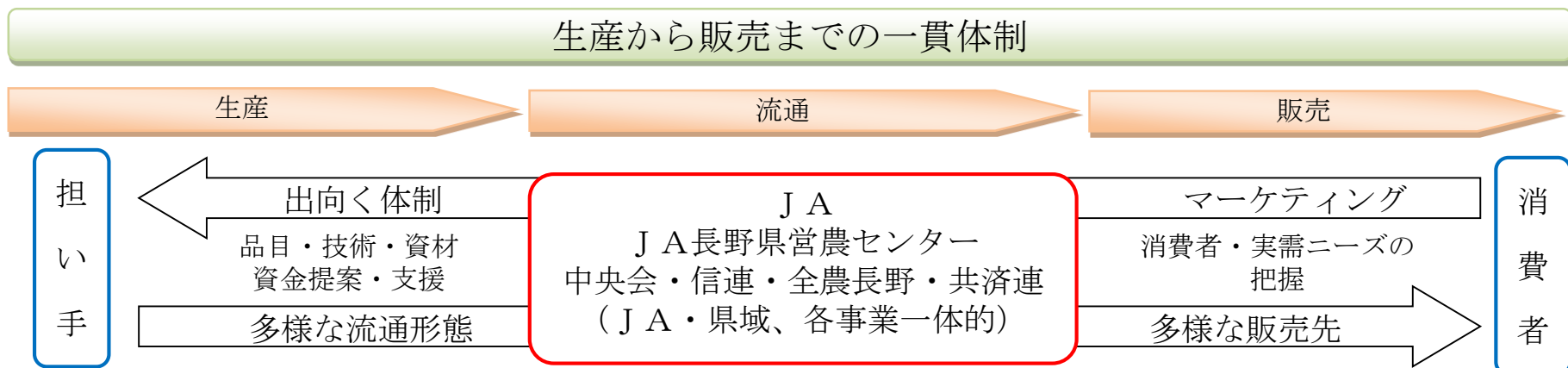


# 農作業死亡事故の機種別・時期別発生状況





# 農業所得増大への取組み





# 具体的な取組み事項

---

1. 重点品目の提案による生産振興
2. 営農指導体制の強化
3. 生産振興に必要な資金対応
4. 生産力維持のための担い手育成・支援
  1. 労働力派遣・確保対策の実施
  2. 新規就農者研修の実施
  3. 農地利用円滑化事業等の活用
  4. 農作業安全啓発活動の取組み
5. 総合的なコストの低減
6. 所得増大を目指した販売力強化
7. 目的別のグループ化と複数共計
8. 物流コストの削減



# 農業経営・担い手支援専任担当部署

産地の中心的な担い手  
(農業法人・認定農業者・集落営農など)

コンサルの実施

出向く体制

**専門部署の機能**

各種情報伝達 ニーズの把握
経営力把握 (簿記・分析・診断)
農業経営コンサル(経営 計画策定支援・税務相談 ・法人化支援・資金・労働 社会保険・記帳代行・農 地の利用調整・労働力の 斡旋等提案型コンサルと 進捗管理)
販売・生産資材・資金等 の部門間連携と事業提案

**【地域支援班】**

普及センター  
(市町村・農業  
委員会など)

関係機関との連携

**【JA農業経営・担い手支援専門部署】**

営農指導(経営管理・技術)・販売  
・生産資材・信用・共済事業のチ  
ーム

直轄  
【担当役員】

県農政部

**【JA長野県営農センター】**

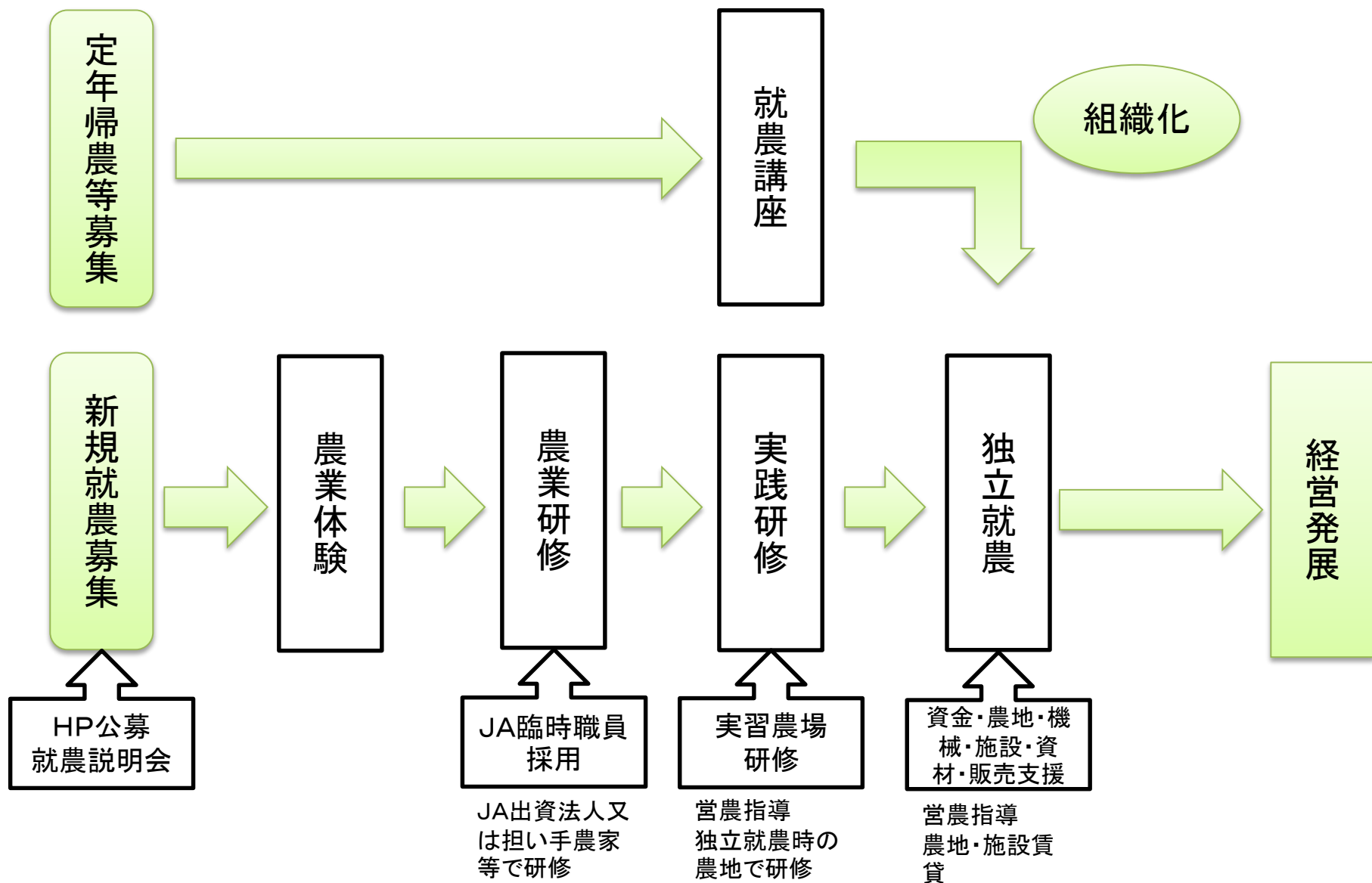
農業経営管理・担い  
手支援専門部署

中央会・各連





# JAが取組む就農者確保モデル





# 農作業安全啓発活動への取組み

---

- 農作業事故は担い手の高齢化に伴い増加傾向にあるが、農作業安全対策は組合員の生命・身体・財産に重大な影響を及ぼす課題と位置付け、農作業安全に対する意識を高め、農業機械・農薬の安全使用について知識を深めることにより、農作業事故の撲滅を目指す。また、万が一の場合に備えたJA共済による保障の提供、労災加入をすすめる。
  - 農作業事故防止運動月間にあわせた広報誌等での啓発活動
  - 農機安全使用・メンテナンス講習会の実施
  - 農薬安全使用・適期防除講習会の実施
  - JA共済、労災の加入推進



# 資材店舗での陳列コンテスト





# 様々な機会を捉えて安全講習の実施



講習会でコンバインの安全作業について学ぶ  
JA大北農業機械銀行受託者部会員ら



農機メーカーの担当者から説明を受け、管理機を  
運転する受講者④

## 各地で農機安全講習

長野・JA大北

### 確信心掛けて

【長野・大北】JA大北と同JA農業機械銀行受託者部会は、コンバインなどの農機の安全運転講習会と運転実演会を松川村の水田で開いた。各地区の部会員ら約30人が出席した。

農機の安全作業の重点を各農機メーカー担当者から聞き、刈り取りの実演を見学した。北安曇農業改良普及センターの担当者は、今年の水稲の生育状況と気温の経過状況を説明した。

JAと普及センターでは「猛暑の影響で出穂が早く、例年より刈り取り適期も早まっている。刈り取り時期を見極め、安

全確認と体調に気を付けるようにお願いしたい」と呼び掛けた。森達也部

会長は「農作業中のけがや体調に気を付け、秋の農繁期を乗り切ってほしい」と話した。

大北管内では、8月20日ごろから2016年産米の刈り取りが始まっている。講習会に参加した松川村の農家は「長丁場の稲刈り作業だが、安全作業を心掛け、良質米を出荷したい」と話した。

### JA信州諏訪

### 正しく使おう

【信州諏訪】JA信州

諏訪は農機安全使用講習会を、諏訪市湖南の湖南農機センターと茅野市豊平の茅野市農機センターで開いた。10人が受講し

た。農機メーカー担当者やJA職員から説明を受け、実際に農地で管理機を運転し、正しい使い方を学んだ。

同JAは7月から、直売所への出荷者や新規就農者拡大に向けた農機レンタル事業を始めている。管内JA農機センターから、小規模生産者や自給的生産者に刈り払い機と管理機を有料で貸し出している。利用者の農作業事故を防止するため講習会を開いた。

JA管農部の小林昇部長は「何よりも、けがなく安全に作業することが重要」と話し、事業の利用と農作業事故防止を呼び掛けた。



# 担当者研修の開催

## 春の農作業事故防げ



乗用型トラクターの講習。操作を誤った片ブレキで転倒することがあり、ブレーキの連結が解除に気づく仕様が揃っていない。

JA長野中央会

### 死亡多発で緊急研修

長野県で昨年、農作業中の死亡事故が相次ぎ、過去10年で最も多い18件が発生した。長野県やJA長野中央会は春の農作業シーズンを前に、県内のJAや県農業改良普及センターの担当者向けに長野市などで、農作業安全を徹底する研修会を緊急開催。農機メーカーや専門家が農機使用の注意点を講習した。  
(梁谷臨太郎)

2017  
フォークス  
信越

昨年発生した死亡事故では、乗用トラクターでの作業時が最も多く、農地に入るときの転倒などが目立った。スピードブレーキ(SS)や歩行型トラクターの事故も多かった。高齢で身体能力が衰えたことや、作業の慣れによる油断が要因と考えられる。週末に県内に帰省し農作業を手伝っていた人が事故を起こすケースもあり、操作に不慣れな人の農機使用にも注意が必要だ。

研修会で農村医学研究所の柳澤和也主任研究員は①「焦る時ほど「息が回れ」」②「大丈夫」が事故のもと③休憩はしっかりとる④携帯電話は緊急時の命綱など分かりやすく事故防止の心得を紹介した。



道路走行時に追突される危険もある。乗用トラクターなどは低速車マークを後部に表示し、後続車に知らせることが重要。



SSも事故が多い。低い枝が体に引っ掛かり、機体に挟まれる危険性を解説した。



## 農業労災への対応

---

- 昭和59年に県内きのみ農家の圧力釜爆発事故をきっかけに、きのみ栽培農家は食品製造業者として、行政指導で雇用労働者に対する労災加入や中小事業主の特別加入が義務付けられ、JA中央会の対応策として、「長野県農業労働保険事務組合」を設立した。
- 平成3年4月に労災補償制度の一部改正により、一般農作業を対象にした「特定農作業従事者」の特別加入制度が新設され、JAグループとして①特定農作業従事者、②指定農業機械作業従事者、③中小事業主等の特別加入のいずれかを農業経営の内容に応じて選択・加入する運動を展開した。
- また、労災加入農家が30戸以上あるJAでは、「労働保険事務組合」を設立して事務処理を行うとともに、加入者による「農業労災保険加入組合」(特別加入団体)を設立した。



# 農作業安全運動の取組み(平成28年度)

JA名	労災保険の事務取扱					農作業安全への取組み具体策						
	労働保険事務組合	特定農作業従事者	指定農業機械作業従事者	中小事業主等	農家が雇用している従業員	1. 年間取組み計画の策定	2. 事故発生状況の把握	3. 春・秋の重点期間の設定	4. 広報誌への記事掲載	5. ポスター、のぼり旗等による啓発	6. 農作業安全に関する研修会・座談会等の実施	7. 資材店舗における安全資材の推進
A	○	60		568		○	○	○	○	○	○	○
B	○	160	33	60	188							
C	○	81	17	121	199	○	○	○	○	○	○	○
D	○	7	38	1	23		○	○	○	○	○	
E	○	202	218	71	77		○			○	○	○
F	○	304	89	6	218		○	○	○	○	○	○
G	○	1		7					○	○	○	
H								○	○	○		
I	○	168	36	57	192				○	○	○	
J	○	33		3			○			○	○	
K									○	○	○	
L	○	72	7	18	10	○	○			○	○	
M	○	52	22	22			○	○	○	○	○	○
N	○	60	87	20	24			○	○	○		
O	○	95	52	97	240		○		○	○	○	
P	○	13	357	164	664			○		○	○	○
計	14	1,308	956	1,215	1,835	3	9	8	11	15	13	6



# 課題と対応策

課題	対応策
1 農作業事故防止の啓発活動の活性化	① ヒヤリ・ハット情報の収集と活用 ② GAPガイドラインにもとづく生産者チェックシートの作成と活用 ③ 生産資材店舗などでの農作業安全陳列コンテストの実施
2 農作業安全運動担当者の育成	① 農作業安全担当者研修の開催 ② 研修資材の作成
3 JA共済による保障の提供、労災加入促進	① 農業労災担当者研修の開催 ② 推進チラシの作成・配布